



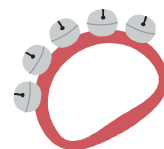
とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム ってなに？

「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、
子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、
学べるよう応援する取り組みです。

取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった
豊かな心の育ちをサポートしていきます。



夢中になって遊び学ぶ

すく
すく

すべての乳幼児の

伸びる・育つ

×

わく
わく

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム



「あれ?!」「なにかな?」



楽しく、みんな一緒に!



とうきょう すくわくプログラム はこちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



「非認知能力」の育成等、 乳幼児の成長・発達をサポート



好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

テーマに関する子供たちの
考えやイメージを
引き出すための問いを考え、
素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例： 光 色 自然 音 泥遊び 絵本 など

例
〇〇って
なあに？



楽器を使い
音の振動を
感じるなど

例：音をテーマとした活動の様子

豊かな心の育ちを応援

乳幼児期は、
「非認知能力」を培う
大切な時

非認知能力とは

自己 にかかわる
心の力

- ・自尊心
- ・自己肯定感
- ・意欲
- ・粘り強さ

社会性 にかかわる
心の力

- ・心の理解能力
- ・共感
- ・思いやり
- ・協同性

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園 西片園
日時	11月～3月

1. 活動テーマ

<テーマ>

光る色を見て、感性を高めよう（0歳児）

<テーマ設定理由>

散歩中に空や花などの自然を見つけて指さして教えてくれる様子が見られるようになり、様々な色に気づけるようになったことを感じた。クラスでも、様々な色を楽しめる経験をさせてあげたいと思い、色をテーマに設定をした。

2. 活動スケジュール

- 光を通した色の遊びを考える。
- 様々な色を用意する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
セロファン・懐中電灯・ランタン・画用紙

【環境の設定】
• ランタンなど光が出るものにセロファンを貼っておく。
• 室内を暗くし、光の色を感じられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ランタンや懐中電灯など、光を発するものに、セロファンを貼り、そこから出る光を楽しむ。
- 色の変化や動く面白さを、子ども達と共感する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 部屋を暗くし、1つめの光を出した時、子ども達は不思議そうな表情をしていた。その後、様々な色をつけていくと、興味を持って光に近づいていく様子がみられた。実際に光の色に触れたり、並んでいる光の色を見比べたり、思い思いに色を楽しんでいるようだった。
- 言葉が出始め、「あか」「あお」などと教えてくれる子もおり、その言葉に保育者が共感することを大切にしていた。また、「きれいだね」「これは何色かな？」などと声をかけることで、言葉とのつながりを感じられるようにした。



- 動く光の色も楽しめるよう、懐中電灯にセロファンをつけたものを壁に投影した。すると、手を伸ばして色を触ろうとする様子も見られた。「面白そう」「何だろう？」という興味をもっている様子だった。



- また、物を通して感じる光の色を経験した。ボタンのように指先を使って押してみる様子もみられ、手指の操作の発達にも繋がることを感じた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 美しいものや動くものから受ける印象を知覚する感性につながる遊びになったと感じた。物事を豊かに体験できる基となる遊びをこれからも続けていきたい。
- 「何だろう？」という経験が、好奇心や観察力に繋がった。不思議を感じる経験を増やし、それを身近な大人と共感することで、共感力や信頼感、自己肯定感を感じられるようにしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園 西片園
日時	7月～3月

1. 活動テーマ

<テーマ>

思いのままに色遊びを楽しもう（2歳児）

<テーマ設定理由>

絵の具遊びが好きな子ども達が多く、様々な経験を増やしたいという思いから、のびのびとした環境の中で遊びを広げていきたい、自由な表現活動を深めていきたい、と考え、色をテーマに設定をした。

2. 活動スケジュール

- 水遊びの中で色を使った遊びをする。
- 用具を使った色遊び。
- 平面だけでなく、立体での色遊びに発展させていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
絵の具・筆・色鉛筆・パレット・模造紙・画用紙・段ボール
机・クレヨン・色鉛筆

【環境の設定】
水遊びで十分に遊びこめる時間や空間の設定。
子どもが色の違いを感じながら選び取れるように、絵の具は様々な種類の色を用意しておく。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- 夏の水遊びの中で、絵の具と模造紙を用意し、自由に色遊びをする。
- 筆やローラーを用意し、白模造紙だけでなく、様々な色の紙に描いてみる。
- 色を楽しんだ紙で、家などの作品につなげる。
- 生活発表会で、色遊びを楽しむ様子を保護者様と共有する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 水遊びの中で、様々な色を使って遊ぶことで、遊びの幅が広がっていった。紙だけでなく、自身の身体にも色をつけて遊ぶ姿もあり、自由にのびのびと色遊びを楽しんでいた。「こんな形になった！」と手や足の形がつくことや、「こんな色になったよ！」と色が混ざり合う様子を嬉しそうに保育者に教える様子がみられた。保育者も一緒になって色遊びを楽しむことで、子ども達も安心して思い切り遊びこむことができていた。



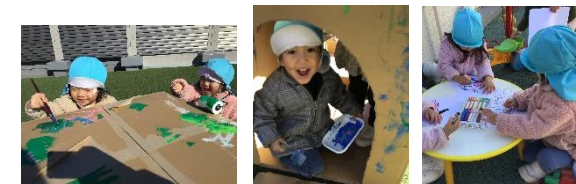
- 手指の操作も上手になり、今度は、筆やローラーを使用して、色遊びを楽しんだ。パレットの中で色を混ぜ合うこと、用具を使うことで色のつき方が違うことを感じる様子がみられた。また、友だちとおもしろさを共感する姿もあった。



- 色遊びを楽しんでいる様子を保護者の方にも見てもらいたいという思いから、生活発表会の劇の中に、実際に色遊びをする様子を取り入れた。「もっとやりたい!」「まだ終わりにしたくない!」という子どもたちの声を共有することができた。



- その後も色遊びは続き、立体の家に色を塗ったり、戸外でお絵描きをしたり、のびのびと色を感じられる経験を深めていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 絵の具の色を、体や用具を使って感じることで、**好奇心や気付き力**が高まった様子がみられた。
- 保育者も一緒に楽しむことが、子ども達が安心してのびのびと表現活動を楽しむことに繋がると感じた。
- 「楽しい」や「嬉しい」を保育者や子ども同士と伝え合うことで、**共感性や社交性**も育まれた。
- 「色遊びは室内」という固定概念を捨て、戸外での活動を積極的に取り入れたことで、心も体も開放されて楽しむことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園 西片園
日時	7月～3月

1. 活動テーマ

<テーマ>

色を探究してみよう（4歳児）

<テーマ設定理由>

塗り絵やお絵描きを楽しむ姿が多く見られた4歳児クラスの子どもたち。夏の時期の水遊びを通して、様々な色を混ぜ合うことでの色の変化や、沢山の色があることを知る機会となり、興味を深め、感性を高めてほしいという思いがあった。また、その経験から、更に色への興味を深め、探究心を深めていく活動につなげていきたいと思ったため、色をテーマに設定をした。

2. 活動スケジュール

- ・色水遊びを通して、自分で色を調合する。
- ・カラーチャートを使って、様々な色に名前があることを知る。
- ・造形コーナーを設置し、自由に色遊びができる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
ウォーターサーバー・透明のコップ・絵の具・カラーチャート
筆・色鉛筆・画用紙・折り紙・鉛筆削り・テープカッター・すずらんテープ

【環境の設定】
・水遊びで十分に遊びこめる時間や空間の設定。
・子どもが色の違いを感じながら選び取れるように、色鉛筆や画用紙は様々な種類の色を用意しておく。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・色水遊びを通して、自分で色を調合する経験をする。
- ・カラーチャートを使って、様々な色に名前があることを知る。
- ・水だけでなく、様々な環境を通して、「色」への興味を深めていく。
- ・造形コーナーを設置し、自由に色遊びができる経験をする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・色水遊びを通して、原色を混ぜることで、「赤と青を混ぜたら紫になった！」「私の好きな水色になった！」など、色の変化に気づく姿がみられた。また、同じ緑でも違う緑があることや、混ぜる色の種類によって色が変化することに気づく様子も見られ、長時間、夢中になって何度も作っていた。出来た色に喜び、保育者や友だちに教えたい、見てほしいという思いが高まった。保育者も「素敵な色ができたね。」と共感することで、嬉しそうな様子だった。



- ・色水遊びで出来た色水を撮影し、写真を部屋に貼った。そこにカラーチャートを用意することで、「私が作った色は〇〇色だ！」「これは〇〇色に似てる！」などという会話が広がった。また、カラーチャートを見て、「これとこれを混ぜたら、こんな色になるのかな？」という気付きもあった。



- ・そこから空の色にも興味広がった。朝の会で、今日の空の色をみんなで語り合う姿も見られるようになり、部屋から見える様々な空の様子を撮影し、写真を部屋に貼ることで、「今日の空は、これと似てるね。」「こんなに空の色が違う時があるんだ。」と話す姿も見られた。空に関する本も用意し、自然の面白さにも興味広がっていった。

- ・造形コーナーを設置し、自由に造形活動ができるようになった。また、自分の好きなタイミングや場所で制作ができるようになり、色を使った遊びが更に広がっていった。さらに、平面だけでなく、立体の制作も増えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・色の混色遊びを夢中になる姿に**探究心**の育ちに繋がっていることを感じた。また、できた喜びを嬉しそうに教え合い、**共感性**も高まった。
- ・カラーチャートを用意することで、更に色に関心を深めることができた。子ども達の「この色を混ぜたらどうなるんだろう？」という会話から、**想像力**にも繋がっていることを感じた。
- ・色の興味が空に広がった時には、子どもの目線の面白さを感じた。毎日、空の色を共有することで、**好奇心**や**観察力**が高まっていった。
- ・造形コーナーに様々な素材を用意することで、思い描いたものが形になる**充実感**も味わえたようだ。